

登録団体紹介

■ ウクレレ同好会「プアレイ」

プアレイは、市民講座を2018年に終了し、2019年1月に発足しました。コロナ禍で、レッスンができない時期がありましたが、仲間の絆で今年で6年目になりました。講師の原啓一先生より講座から今まで暖かいご指導を頂き、続けられたと感謝致しております。メンバーは10名で、ウクレレの他に、ギター、ベースが加わりハワイアンポップス、歌謡曲と幅広い演奏ができるようになりました。

レッスンは先生より楽譜が配布されて、リズム、歌を指導して頂きます。始めはうまくいかず落ちこむこともあります。繰り返すうちにリズムが合い、先生よりOKができた時の達成感は何とも言えません。

これからも幅広いジャンルの曲を演奏できるようにメンバー全員で楽しく、厳しく末永く続けていきたいと思っております。年1回定期的に「ウクレレを楽しもう」をテーマに成果発表会を開催しております。今年、いちごホールで6月29日午後（毎年6月ごろ）に開催いたします。

練習日は、日曜日午前中 月2回若若男女問わず仲間になりませんか。

代表：堀川 三郎



■ 有機農業ネットワークとちぎ

「有機」という言葉は、「いのちあるもの」という意味、「有機農業」は「いのちのある農業」という意味になります。農業は本来、微生物や作物や家畜のいのちを育てるものであり、そのいのちによって私たちのいのちもまた支えられています。

「有機農業ネットワークとちぎ」は、農業者だけでなく、どなたでも参加することができるネットワークです。農や食、環境問題に関心のある人々が集い、豊かな自然環境と健全な食を守り、後世に引き継ぐために、さまざまな情報を交換し、共に考え、地域に根ざした活動をするを目的としています。

夏には農場見学会、冬には種苗交換会や公開の勉強会など催していますので、ご興味ある方、ぜひご参加ください。会員も随時募集しております。

事務局連絡先 稲田 健 メール：inada-ken.t@silver.plala.or.jp

代表：小野寺 幸絵



■ 真岡市野球連盟

真岡市野球連盟は、市内の軟式野球団体により構成されています。現在、社会人である一般の部に25チームが、小学生の部である学童に8チームが登録して大会開催と事業を運営しています。

一般の部では、春に野球連盟会長杯大会、夏に市長杯大会、秋にスポーツ協会会長杯大会の3大会開催しています。学童部では、春季・夏季・新人戦の3つの大会を開催するとともに、各大会の成績上位チームは、栃木県大会に出場しています。特に、真岡クラブにおいては、県大会を制覇し見事に関東大会出場を果たすなど、輝かしい成果を上げています。

こうした著しい活躍は、運営に携わる者にとって何よりの励みとなっています。大会運営は、審判員の皆さんのボランティア精神にあふれた協力によって成り立っています。ぜひ、軟式野球や審判に興味のある方は、ともに活動してみませんか？連絡お待ちしております。

連絡先 080-7842-3135 真岡野球連盟事務局 石崎 幸雄

代表：野沢 達



真岡市市民活動推進センター

コラボーレもおか



●コラボーレもおか
イメージキャラクター
こらちゃん(左)と
ポーレくん(右)

〒321-4507

栃木県真岡市石島893-15 真岡市二宮コミュニティセンター2F

T E L : 0285-81-5522

F A X : 0285-81-5558

e-mail : info@collabo-moka.net

U R L : https://www.collabo-moka.net

【開館時間】火～金：9:00～21:00（土・日は18:00まで）

【休館日】・毎週月曜日・祝日・年末年始（12/29～1/3）

※その他イベント・施設管理の関係で臨時に休館になる場合があります。



もおかの人と人をつなぐ情報誌

コラボ!

第65号

2025.4

真岡市市民活動推進センター コラボーレもおか 【運営団体】特定非営利活動法人ま・わ・た

特集

災害は日常の中に

ボランティアと
地域のつながりを考える

能登半島地震から1年が経った今、改めて災害ボランティアや、災害時に関わる人々・組織について学ぶ機会として、令和7年3月1日（土）にAutoMirai真岡公民館で協働理解促進講座「あなたの力が地域を救う How To ボランティア」を開催しました。本講座では、3名の講師・報告者をお迎えし、参加者の皆さんとともに災害ボランティアについて理解を深めました。

はじめに宇都宮市社会福祉協議会の八木茂氏を講師にお迎えし、ご自身の災害ボランティアセンター運営の経験をもとに、災害ボランティアの重要性や地域連携の大切さについてお話いただきました。特に、災害ボランティアセンターの担当者として、多様な人々とのつながりがいかに重要であるかについて、具体的な事例を交えてご説明いただきました。

続いて、上原ジョー氏による事例報告では、能登半島地震での災害ボランティア活動について、現地の写真を交えながらご報告いただきました。上原氏のお話の中では、被災地での支援活動を通じて被災者との向き合うか、また、心構えの大切さについても語られました。



同様に、真岡市社会福祉協議会の関悠大氏からは、真岡市における自然災害時の対応や、平時の取り組みについてご報告いただきました。特に、2012年に真岡市で発生した竜巻災害時の市や社会福祉協議会の対応を振り返りつつ、災害時の協力体制や、平時からの防災対策の重要性について詳しくお話いただきました。

その後、上原氏の主導でラジオ体操を行い、リフレッシュした後、約1時間のグループワークを実施しました。はじめに八木氏が話題を提供し、東日本大震災発生当時のラジオ放送の音声を聞きながら、当時の記憶を振り返りました。そして、「震災時にどのような行動をとったか」を思い出しながら、災害から学んだことや、今後自分にできることについて話し合い、参加者同士で意見を共有しました。防災への意識や人とのつながり、緊急時にできることについてさまざまな意見が出るなか、「災害は日常の中にある」という言葉が特に印象に残りました。

本講座を通じて、「災害ボランティア」の基礎を学ぶだけでなく、災害時のさまざまなつながりや、自分たちにできること、防災意識の重要性についても触れることができました。今後もより多くの方に災害ボランティアについて知ってもらえるよう、周知を進めていきたいです。

こらぼ茶話 「フードバンクってなに？」

12/14 土

12月14日(土)に、こらぼ茶話「フードバンクってなに？」を開催しました。

「フードバンク」という言葉はよく耳にしますが、実際の活動について知る機会は少ないかもしれません。そこで今回は、真岡市内で活動している「フードバンクもおか」の皆さんを訪問し、事務所で話を伺いました。

主に対応してくださったのは、飯野氏と石田氏のお二人です。フードバンクの概要や、真岡市における貧困の現状、これまでの支援状況について、雑談を交えながらわかりやすくお話しいただきました。立ち上げ当初から仲間たちと共に、困窮者が現状から抜け出せるよう支援を続けてきたことなど、フードバンクへの熱い想いを感じることができました。

また、今回の講座では、フードロスになりそうな食品の寄付も呼びかけました。その結果、合計で5~6kgの食品が集まりました。講座に参加した皆さんにとって、今回のお話が困窮者支援への第一歩となれば幸いです。

(参加者6名)



こらぼ茶話 「めざせ！ふくし体験の先生」

1/25 土 2/8 土 2/22 土

本講座では、「車いす体験」「アイマスク体験」「インスタントシニア体験」の3つのプログラムを行い、講師として真岡市社会福祉協議会の木村氏、堤氏をお招きし、座学と実習を通して学びを深めました。受講後には、真岡市内の小学校で行われる「ふくし体験授業」のサポートボランティアとして参加してもらうことを目指しました。

第1回：車いす体験

初回の車いす体験では、まず座学で「当事者に寄り添い、自分たちに何ができるのかを考える」というふくし体験授業の目的について学びました。その後、車いすの基本的な使い方や注意点を確認しました。

実習では、車いすを押す側と乗る側の両方を体験し、利用者の視点やサポートの難しさを実感しました。実際に体験することで多くの気づきがあり、参加者からさまざまな意見や質問が出ました。

第2回：アイマスク体験

2回目のアイマスク体験では、1人が視覚障がい者役、もう1人がガイド役となり、二宮コミュニティセンター内の階段を実際に上り下りしました。

視覚を奪われることで生じる転落の恐怖や、ガイドをする側の責任の重さを実感し、参加者は緊張感をもって実習に取り組みました。

第3回：インスタントシニア体験

最終回のインスタントシニア体験では、高齢者がどのように日常を感じているのかを体験するため、多様な装具を身に着けた実習を行いました。

また、子どもたちに高齢者の状態をどのように伝えるかについても学びました。特に、白内障体験用のゴーグルを着用した際には、視界が悪くなり、信号や標識を誤認する危険性があることを理解できました。

3回の講座を通じて、障がいへの理解を深めるとともに、福祉教育の大切さや子どもたちへの伝え方を学ぶことができました。この経験を活かし、受講者の皆さんが「ふくし体験授業」のサポートボランティアとして活躍してくれることを期待しています。

(参加者1月25日4名、2月8日7名、2月22日6名)



「車いす体験」の様子



「アイマスク体験」の様子



「インスタントシニア体験」の様子

「スキルアップ講座 団体づくりスタートアップ講座」

2/1 土

二宮コミュニティセンター204会議室で、スキルアップ講座「団体づくりスタートアップ講座」を開催しました。

「社会貢献のために活動したい」「地域の困りごとを解決する団体を立ち上げたい」といった相談をこれまで数多く受けてきました。そこで今回は、すでに団体を活動始めた方や、これから団体を立ち上げたいと考えている方を対象に、運営について学ぶ講座を開催しました。

講師には、とちぎボランティアNPOセンターぼ・ぼ・らのセンター長・町田英俊氏をお招きし、豊富な経験と知識のもとに、団体づくりに必要な考え方や法令の説明、任意団体・NPO法人・その他の法人の違いなどについて、立ち上げから運営に至るまでのポイントをわかりやすく解説していただきました。

また、参加者同士のグループトークやQ&Aの時間では、予定時間を超えるほど白熱した意見交換が行われ、大変盛り上がりしました。

今回の講座を通じて、団体づくりに必要な知識だけでなく、新たな人とのつながりも生まれたのではないのでしょうか。

今後も、参加者の皆さんの活動が円滑にスタートできるよう、引き続きサポートしていきたいと思えます。

(参加者5名)



「五行川の草を抜くというボランティア」

12/8 日 1/19 日 2/16 日

今年も、五行川の除草ボランティアを実施しました。

市民の皆さんが河川緑地を気持ちよく利用できるよう、美しい景観を目指し、五行川沿いの雑草を抜く活動を3年前から継続しています。

今年は、毎年参加してくださる方や作業に慣れている方も多く、例年以上に作業が順調に進みました。そのおかげで、あっという間に緑地の雑草が片付きました。

また、ボランティアの皆さんの継続的な活動により、河川敷の植生にも変化が見られます。以前は抜くにくいイネ科植物が多く生えていましたが、最近ではセンダングサのような抜きやすい草に変わってきました。さらに、一緒に作業をしていると自然に交流が生まれ、休憩中には初めて会った方向士の会話も弾んでいました。こうした継続的な活動による環境の変化や、人と人とのつながりが生まれることも、ボランティア活動の醍醐味ではないでしょうか。

今後も、ボランティアが初めての方や企業の皆さんにも参加しやすい活動の場として、継続していきたいと思えます。

(参加者12月8日10名、1月19日16名、2月16日12名)



センターより

「ご利用の手引き」をリニューアルしました

センターの利用方法をまとめた「ご利用の手引き」を新しくリニューアルしました。

この手引きには、センターの役割や利用できる設備・サービス、利用に関するルールなどを明記しています。

また、ミーティングルームの予約が混雑している際は、真岡市内の各公民館会議室を半額でご利用できる制度を、新たに記載しました。

センターをご利用の際は、ぜひご覧ください。

※ウェブサイトにも上げています。QRコードからご覧ください。



団体名	主な活動内容
真岡フォークダンスサークルもめん	フォークダンスの普及
有機農業ネットワークとちぎ	豊かな自然環境と食を守り後世に引き継ぐために情報を交換し、共に考え、地域に根差した活動を行う
ウクレレ同好会プレアイ	ウクレレ演奏を通じて会員の親睦を深め、楽しんで演奏を行う
3B体操 アジサイ	体操の練習

新規
団体
紹介
(3月現在)